

【定例知事会見】 11月20日

知事／おはようございます。報告案件から。

● 「大隈重信 100 年 Academia」大隈重信侯没後 100 年プロジェクト

来年 1 月 10 日は大隈信重侯の 100 回忌。侯は、2 度の総理経験者。総理就任前には佐賀に帰省し、最後の帰省は亡くなる 5 年前の 1917 年。

維新博では、銅像を造り、大隈重信メモリーズを実施。小説「威風堂々」は連載中。

来年 1 月 10 日からの 1 年間を「大隈重信 100 年 Academia」とし、侯の情報発信をしていく。鉄道の建設や早稲田大学を創設した人物。維新まつりや演劇、小説の出版で大隈ブームを起こし、この 1 年を集大成の年にしたい。

Academia の入学式を 1 月 9 日に市村記念体育館で行う。体育館の周囲に記念プレート設置や小説の作者伊東潤氏の祝辞、早稲田大学応援部による校歌「紺碧の空」の斉唱。

大隈侯の偉業に学び、佐賀の未来を想い、佐賀の地に種をまいていきたい。

● 佐賀野球王座奪還プロジェクト!～佐賀球児が輝ける環境を作ります～

市村記念体育館の前に、全国制覇をした佐賀商、佐賀北のプレートがある。九州の中でも優勝した県は少なく、本来、野球はお家芸。

軟式野球をしている中学 3 年生に、高校の硬式野球を体験してもらおう。基山・鳥栖地区で実施したが、選手の県外流出を防ぐためにも全県に広めたい。

中学の軟式野球に「オール SAGA」という選抜チームを作った。他県との交流試合は、コロナで中止になったが、ひらまつ病院との練習や佐賀銀行と交流試合をした。

一方、硬式野球のリーグに所属している中学生もいる。今まで県内で試合をすることはなかった。今年は、県が呼びかけ、4 つのリーグが交流大会をした。来年は、ぜひ全リーグ参加でと声がかかっている。

佐賀県は、いち早く代替大会をやると決め、SSP カップを実施した。

また、県立高校の入試で、野球の推薦枠を 87 人増やす。これで、県内・外の選手が、佐賀県の

県立高校で野球をしやすい環境が整った。

今年度の事業でスコアボードを大型スクリーンにした。映像と切り換えられる。グラウンドの土壌を改良して、水はけをよくする。佐賀の野球選手が憧れる球場にしたい。

佐賀東高校出身のライオンズの辻監督と鳥栖高校出身のカープの緒方元監督は、SSP アンバサダー。両球団のオープン戦を続けるなか、来年は 12 年ぶりに巨人対広島公式戦が実現。

「二度あることは三度ある」のことわざどおり、深紅の優勝旗を再び佐賀に。

- 世界一幸せな国とタッグを組みます～フィンランドに触れ、フィンランドに学ぶ～

来年のオリンピック、パラリンピックでは、フィンランドの 16 競技の選手団が 7 月中旬から佐賀で事前キャンプを行う予定。

フィンランドは、世界幸福度ランキング 3 年連続 1 位。オーロラ、サウナ発祥の地、フィンランドデザイン、サンタクロースでも有名。

首相は、就任時 34 歳の女性で、内閣も半数以上が女性。教育は大学まで授業料無償。環境問題に対する意識も進んでいる。これらの魅力に触れ、学び、連携を深化していきたい。

「触れる」として、フィンランドフェアを 12 月 12 日、13 日にアバンセとどんどんの森で開催。伝統楽器カンテレの生演奏や伝統デザイン、SISU(シス)という幸せの考え方の紹介、ムーミンもムーミンバレーパークからやってくる。皆さんにフィンランドに親んでもらいたい。

次に「学ぶ」。ネウボラを意識し「子育てし大県」に取り組んできた。ネウボラは、担当の保健師が妊娠から就学前にかけて、切れ目のない支援をする。公共セクションとのネットワークがつながり、さまざまな相談ができるすばらしい制度。日本は、妊娠から出産後 1 か月間のママとのつながりが少ないことが課題。いつでも相談できる体制が必要だ。

アプリ「ママリ」を運営するコネヒト株式会社と連携していく。このアプリは、いろんな悩みを先輩ママに相談できるもの。「家族を話そう」をキーメッセージに、多様な家族像の実現に向けたサービスを展開している KDDI の子会社。佐賀県が考えているコンセプトに似ており、「ママや家族とのつながりづくり連携協定」を結ぶ。今月 25 日に北吉社長と協定の締結式を行う。

ネットを使ったネウボラのような相談できる体制を構築する事業。ママ及びその家族と市町の職員がつながるための新機能の開発、実証をする。そして、専門職が助言しママ同士では解決できない悩みに答えられるシステムを作りたい。

東京オリンピック・パラリンピックのレガシーとして、フィンランドと関係を深めていき、佐賀県の政策に活かしたい。

● あなたのまちにも「SAGATOCO」スタンプラリーコースが登場！

現在、ロマサガのマンホールと、吉野ヶ里歴史公園内の2つのスタンプラリーコースがある。SAGATOCO を持って近づき、ボタンを押すとスタンプが集まるシステム。スタンプを集めるとさまざまなサービス、特典がある。ロマサガは、コースクリアでオリジナルグッズがプレゼントされる。

今月から毎月5つの市町のコースが配信され、2月には県内全ての市町のスタンプラリーコースが揃う。例えば、多久のコースは、富永ボンドさんのウォールアートを探すコース。各市町の特徴あるラリーが楽しめる。

楽しみ方はいろいろ。

- ・スタンプを集める
- ・SNSで「あなたのまちを歩こう!キャンペーン」に参加する
- ・「歩こう。佐賀県。」のフォトコンテストに参加する

九州一周のバーチャルで歩くコースは、かなりタフ。

1年1か月で、5万4,000人超のダウンロード。佐賀県は、糖尿病予備軍を含めた数が全国ワースト。その大きな原因は歩かないこと。SAGATOCO を持って、徒歩、自転車、バス、電車を利用すれば生活の速度が変わる。出会いや交流が増え、まちも人も元気になっていく。

11月20日にはさらに偉人像、佐賀城周辺を巡るコースも併せて公開したい。期待してほしい。

● 「SAGĀNA Project」アライアンス強化中！

第5弾は、県庁内に10人程度を受け入れる。

第6弾は、「SAGAn BEAUTY weekend」。佐賀のコスメ系商品を全日空の皆さんにプレゼン

トする。

第 7 弾は、全日空のオーケストラによる佐賀県内ツアー。クリスマスイブとクリスマスに内定した。さまざまな箇所でもオーケストラを楽しんでもらえる。ウィン・ウインの関係を続けていきたい。

- 佐賀・鹿児島交流プロジェクト「エール 2023」をスタートします

2023 年の国民スポーツ大会は、鹿児島に譲り、佐賀県は 1 年ずれることになった。これを双子の大会とし、佐賀・鹿児島交流プロジェクト「エール 2023」をスタートする。スポーツだけでなく、文化や学生の交流をイメージしたロゴマークを作る。お互い連携しながら、将来に向かった交流をしていきたい。

- 障害のあるなしにかかわらず、ともに暮らしやすい佐賀県に

今月は障害者月間。障害者の差別の撤廃、合理的配慮、心のバリアフリーを撤廃していく条例をつくり、施策をやっている。イベント、マルシェ、障害者スポーツフェスタなどを開催する。

来年 1 月からカード型の障害者手帳の交付を開始する。紙製かカード型を選べるのは、先月、東京と大分が始め、佐賀県は 3 県目。みんなが支え合う佐賀県をつくってきたい。

- “大動脈”国道 207 号鹿島バイパスの 4 車線化が年内に完了します

昭和 49 年度から着工した国道 207 号のバイパスが完成し、年内に全線 4 車線化が実現する。祐徳稲荷神社までの混雑緩和や産業振興、そして交通事故の減少にもなり、鹿島、太良エリアの振興に期待ができる。

コロナで厳しい状況だが、一つになって乗り越えて、チーム佐賀、オール佐賀で頑張っていきたい。